Museum News

美術館ニュース 群馬の森

no.190
2022 10/1

理想の書物

THE IDEAL BOOK

1

3

4

6

2

5

― 英国19世紀挿絵本からプライヴェート・プレスの世界へ ―

British 19th century illustrated books and the private presses

2022年9月17日［土］－11月13日［日］

前期　9月17日［土］－10月10日［月・祝］
後期　10月13日［木］－11月13日［日］

会　　場： 展示室1
休 館 日： 毎週月曜日（ただし9月19日、10月10日は開館）、9月20日［火］、10月11日［火］　※10月12日［水］は展示室1を休室
観 覧 料： 一般900（720）円、大高生450（360）円
＊（　）内は20名以上の団体割引料金
＊中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日（10月28日［金］）に観覧される方は無料
主　　催： 群馬県立近代美術館
特別協力： 郡山市立美術館

世界に先駆けて産業革命を成し遂げ、中産階級の台頭を見た18世紀末から19世紀にかけてのイギリスでは、社会の構造が変化して読書の需要が高まります。印刷や流通などにおける技術の革新もこれを支え、書物の出版量が飛躍的に増大しました。この時代に、木口木版の技術が確立し、扉絵や本文中に見事な挿絵を加えた美しい書物が出版されて人気を博します。

19世紀末になると、ウィリアム・モリスのケルムスコット・プレスを筆頭に、印刷の黎明期であるルネサンス期やさらに中世の写本にまで遡って研究し、活字をデザインするところから始めるなど、あらためて理想的な美しい本を作ろうとする運動がおこります。このプライヴェート・プレス運動は本作りにおけるひとつの理想型を作り上げました。その後の1920年代にはイギリス木版画の黄金時代が訪れ、プライヴェート・プレスの第二世代が新しい挿絵本作りの舞台を提供しています。

本展はこのような歴史をかえりみて、イギリスの美しい本作りの土壌として19世紀イギリスの挿絵本を中心に紹介する第1部と、プライヴェート・プレスの出版物に焦点を当てる第2部により、約100点の書物をご紹介して理想の書物を求めた運動を追うものです。

［関連事業］

・**講演会1**　※2F講堂、要申込（定員100名）・参加無料
「イギリスの書物の魅力」
講師：永山多貴子（郡山市立美術館学芸員）
10月16日（日）午後2時－3時30分

・**講演会2**　※2F講堂、要申込（定員100名）・参加無料
「理想の書体と組版とは －プライヴェート・プレスの書体を俯瞰して考える－」
講師：木谷正人（印刷博物館　印刷工房インストラクター・研究員）
11月5日（土）午後2時－3時30分

・**学芸員による作品解説会**
※2F講堂、申込不要（定員100名）・要観覧料
11月2日（水）、11月12日（土）午後2時－3時

※新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、少人数で距離を保って開催いたします。
※申込方法等は当館HPをご覧ください。

1. ウィリアム・ブレイク画 『ヨブ記』1825年刊　郡山市立美術館蔵
2. ルウェリン・ポウィス著、ロバート・ギビングズ画 『生命の栄光』ゴールデン・コッカレル・プレス刊、1834年 郡山市立美術館蔵
3. ウィリアム・アリンガム著、リチャード・ドイル画 『妖精の国にて』より《妖精の女王の空のドライブ》 1875年刊 栃木県立美術館蔵
4. オスカー・ワイルド著、オーブリー・ビアズリー画 『サロメ』（英訳版）より《クライマックス》1894年刊　K.コレクション
5. 『ジェフリー・チョーサー著作集』表紙 ケルムスコット・プレス刊、1896年　株式会社モリサワ蔵
6. 『ジェフリー・チョーサー著作集』扉 ケルムスコット・プレス刊、1896年　株式会社モリサワ蔵

休館中のスクールプログラムレポート

小菅瑞希

空調設備更新工事等のため休館していた 2021 年 12 月 16 日から 2022 年 7 月 1 日の期間中、学校に出向いて鑑賞授業などを行いました。

当館の作品の複製ポスターを用いた出張授業

美術館見学で行うアートツアー同様に、アートカードゲームで遊びながら作品の見方を学んだ後、複製ポスターでグループ鑑賞を行いました。スクールサポーターが各グループに入り、一緒に対話しながら鑑賞をすることで、子どもたちの見方がどんどん広がります。先生たちからは「正に、主体的・対話的で深い学びが実践できる授業だ」と毎回評価されています。

《ゲルニカ（タピスリ）》についての出張授業

＊NHK『首都圏ネットワーク』に取り上げられました。

当館が所蔵する《ゲルニカ（タピスリ）》が 7 月 2 日からコレクション展示に出品されるにあたって、たくさんの子どもたちに見に来てもらえるようピカソの《ゲルニカ》を題材にした出張授業も行いました。作品の知識は必要なく、「作品の中で何が起こっているのか」について子どもたちの自由な視点で対話をしながら見方を深めていきます。子どもたちからは「絶望だけでなく、希望も感じる」という意見もあがりました。

《花子誕生》複製画セットを使った出張授業

中学校の美術資料集に掲載されている山口薫《花子誕生》の複製画セットを昨年度作成しました。その教材を用いて授業を行いました。まずはひとりで鑑賞し、グループで気づいたことを意見交換、その後クラス全体で出た意見を発表しました。子どもたちからは「友だちの意見を聞くことで、形や色に注目してたくさんの視点から考えることができた」「1 枚の絵からいろいろな物語が想像できるので面白かった」など感想があがりました。

複製画ポスターを展示して移動美術館

特別支援学校で、複製画ポスターを約 30 点展示した移動美術館を行いました。自分のお気に入りの作品を見つけたり、ポーズを取って作品の中の登場人物になったりと思い思いに作品を鑑賞しました。先生からは「なかなか美術館に行くことができないので子どもたちのよい経験になった」と意見が出ました。

友の会だより

現在、友の会では、一般（個人）の方を対象にした半期会員（10/1～翌年 3/31）を募集中です。半期会員は、年会費の半額 1,000円で、当館に加えて 4つの美術館の観覧料減免などの特典があります。是非この機会にご入会ください。

■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館［両館あわせて有効期間中 1回無料、ほか半額］
高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館［団体割引相当額］

■主な事業

＊展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、講演会やコンサート等を開催。
＊会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

チケットホルダー

ペンスタンドホルダー

Museum :. Shop

「理想の書物」展会期中 (9/17 ～ 11/13) は、ウィリアム・モリス関連のグッズ（ブックカバー、クリアファイル、チケットホルダー、ペンスタンドホルダー、マスキングテープなど）をたくさん取りそろえて、皆様のご来店をお待ちしております。

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会　TEL 027-346-5560（代表）／FAX 027-346-4064

［展示室２・6］

■日本と西洋の近代美術Ⅱ　9/17 ～ 12/21

当館の収蔵品より、印象派から 20世紀前半の西洋近代絵画ならびに彫刻、群馬ゆかりの作家や明治から昭和を代表する作家たちによる日本近代洋画を展示します。

福沢一郎《祝祭》 1963年

［展示室３］

■現代の美術Ⅱ　9/17 ～ 11/13

佐々木耕成、岡本健彦、白川昌生といった群馬県ゆかりの作家を中心に、20世紀後半から現代までの現代美術作品を紹介します。昨年度新たに収蔵された佐々木耕成《無題》は当館初公開となります。

岡本健彦《兜蟹図》 2010年

［展示室４］

■ 20世紀イギリス美術　9/17 ～ 10/30

■「萩原朔太郎大全 2022」連携展示
詩とイメージ　―司修作品を中心に　11/1 ～ 12/21

「20世紀イギリス美術」では、当館が収蔵する20世紀イギリス美術を代表する作家、ヘンリー・ムーア、バーバラ・ヘップワース、ベン・ニコルソン、デイヴィッド・ホックニーの作品を一同に展示します。「詩とイメージ」では、萩原朔太郎の没後 80年を記念して全国で開催される「萩原朔太郎大全 2022」と連携して、朔太郎の詩にインスピレーションを得た司修の絵画作品を中心に紹介します。

ヘンリー・ムーア『羊連作』より
《羊の頭》1974年

［展示室５］

■幾何学的構成の美　9/17 ～ 12/21

コレクション作品の中から、幾何学的な抽象形態で構成された作品を集めて展示します。

鶴岡政男《MEDO(メド)》 1967年

［展示室７（山種記念館）］

■水のある情景　9/17 ～ 10/30

■染めと織り－着物の美－　11/1 ～ 12/21

水は雨、雪、川、海など様々に姿形を変えて景色を彩るとともに、生活用水として人々の暮らしの中にありました。「水のある情景」では、所蔵作品の中から水に注目してご紹介します。「染めと織り－着物の美－」では、この春逝去された人間国宝の北村武資氏を偲び、《金地経錦丸帯》、《羅地金襴丸帯》を展示するとともに、ほか染織作家による着物をご紹介します。

北村武資《金地経錦丸帯》（部分）1987年

「群馬青年ビエンナーレ」募集延期のお知らせ

「群馬青年ビエンナーレ」は、隔年で開催している、16 歳から 29 歳までの若手作家を対象とした全国公募展です。前回の「群馬青年ビエンナーレ 2021」は、2020 年から 21 年にかけての新型コロナウイルス感染症流行の影響により、約半年延期して開催しました。次回につきましては、本来 2023 年に開催するところですが、今後当館で予定されている施設改修工事に鑑み、一回休止とさせていただきます。次回募集は 2024 年を予定しております。応募を予定していた皆様にはご迷惑をおかけしますが、なにとぞご了承いただけますようお願い申し上げます。

作品ひとつ

定松晶子

エドゥアルド・パオロッツィは、エディンバラ北部のリースに生まれた英国の現代美術作家です。イタリアから移住してきた両親は、アイスクリームパーラーを営み、パオロッツィは子どもの頃から、ハリウッドスターや飛行機が印刷された煙草のカードを集めるなど、アメリカ文化に親しんで育ちました。1943～44年にエディンバラとロンドンで芸術を学び、40年代後半から英国ポップアートの先駆的な作家として、商業的イメージや名作芸術を引用したコラージュ、抽象彫刻作品などを制作しました。

この作品は1975年、イタリア・ルネサンスの巨匠ミケランジェロの生誕500年を記念して発行された版画集『ミケランジェロ讃』のために、パオロッツィが制作した1点です。この版画集には、デイヴィッド・ホックニーやヘンリー・ムーアら全13作家の作品が収められています。

パオロッツィの作品とミケランジェロの関わりは、これが最初ではありません。1967年にはミケランジェロの傑作、ダヴィデ像とミッキーマウスを組み合わせた版画を制作しています。そこにおいてダヴィデ像は、印刷物や映像、画学生たちをうんざりさせるデッサン用の石膏像として大量に複製され、消費される、つまりミッキーマウスと同じ、というポップアートの視点で捉えられています。

一方、『ミケランジェロ讃』の本作は、様々な形態を寄せ集めて構成したパオロッツィの代表的な立体や版画と同タイプの作品と考えられます。赤茶色の幾何学的な形態が組み合わされて並べられ、まるで建築の配置図のようにも見えます。さらにその余白には、設計図のような線と文字が描き込まれ、建築家でもあったミケランジェロが数多く残した建築素描を彷彿とさせます。1975年、巨匠の生誕記念事業として、大英博物館でミケランジェロの素描展が開催されました。同じくイギリスの画家、ホックニーは、そこで目にした素描を『ミケランジェロ讃』の自分の作品に描き込んでいます。パオロッツィもこの展覧会で見た建築素描に触発されたと考えてもおかしくはないでしょう。右下の余白に描かれた6角形の図面は、おそらく「ラウレンツィアーナ図書館、稀覯本閲覧室計画案」から採られており、上の抽象形態は「サン・ロレンツォ聖堂ファサードに使用する大理石のスケッチ」のようでもあり、建築や墓廟の部分の寄せ集めなのかも知れません。パオロッツィは巨匠にインスパイアされた自分の抽象形態と、巨匠の素描から借りたイメージを重ねることで、オマージュ作品を生み出したのです。

この作品はコレクション展示の「幾何学的構成の美」に展示されています。

エドゥアルド・パオロッツィ
（1924-2005）
『ミケランジェロ讃』より 1975年
エッチング・紙　58.9×49.4 cm

次回展覧会案内

アートのための場所づくり

1970年代から90年代の群馬におけるアートスペース

2023年1月21日［土］－4月9日［日］

会　　場： 展示室1、ギャラリー
休 館 日： 毎週月曜日
観 覧 料： 一般 700（560）円、大高生 350（280）円
＊（　）内は20名以上の団体割引料金
＊中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

「隅屋夢幻の16篇のはなの詩による版画展
－金子英彦セリグラフ展」案内状
（ぐんまアートセンターギャラリー、1974年）

明治初期に創業した書店、煥乎堂は、前橋の店舗内で古くから美術展などを開催し、1960年代後半に白井晟一設計の新店舗にギャラリー専用スペースが設けられると、年間を通してさらに多彩な展示を行うようになります。そこでは群馬県関係作家を中心に広く国内外の美術が紹介され、特に創業家の高橋元吉と縁の深い高田博厚を中心とした一元会展や県関係作家をセレクトした煥乎堂美術展といったアニュアル展は、その活動を特徴づけるものとなっていきました。

20世紀後半を通して作家や文化人が分野を超えて集い交流する場となった「煥乎堂ギャラリー」のほかにも、群馬県内にはこれまで様々な「アートのための場所」がつくられてきました。1970年代の「ぐんまアートセンター」、80年代から現在も活動を続ける「コンセプトスペース」、80年代から2000年まで活動した「アートハウス」は、すべて作家主体で運営され、地域の作家たちに発表の場を提供するだけでなく、国内外の同時代美術を紹介する役割を果たしてきました。さらに 90年代、白川昌生らによる「場所・群馬」の活動拠点になると同時に積極的に海外作家を招聘した「北関東造形美術館」は、専門学校の付属施設としての役割を超えた独自の活動を展開しました。

この展覧会では、「煥乎堂ギャラリー」を中心に1970年代から90年代に群馬県内で活動した主なアートスペースの歴史を振り返り、多様な人々が集い、新たな創造を生み出す場となったそれぞれのスペースの特質や、県内のアートシーンに果たした役割を検証します。

群馬の森 美術館ニュース

群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA
〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1
TEL 027-346-5560　FAX 027-346-4064
https://mmag.pref.gunma.jp/

デザイン：寺澤事務所・工房
印　　刷：上毎印刷工業株式会社